

ともに・こころ・つたえあう～男女共同参画fromむさしの

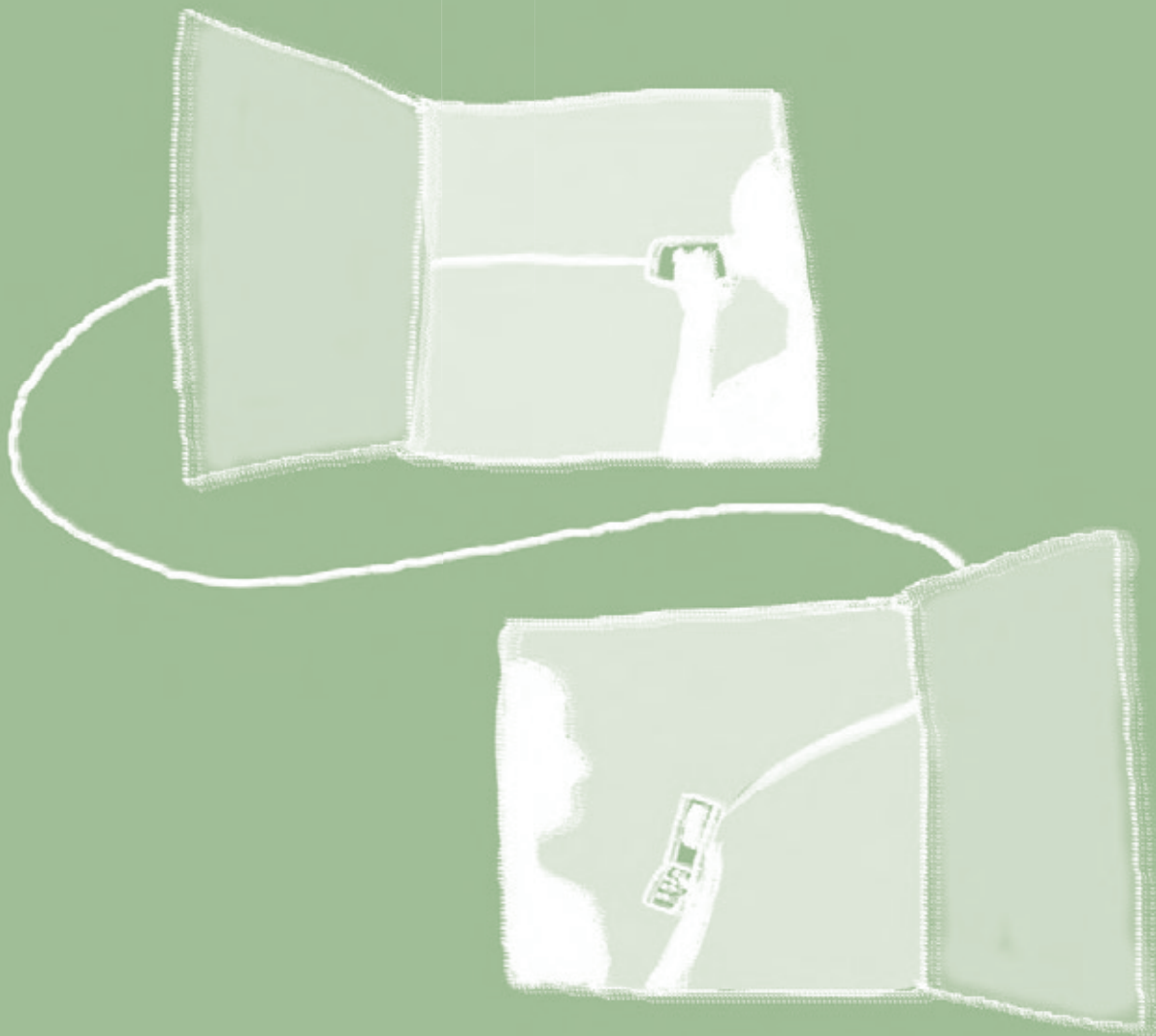
まなこ

manako.
まなこ

特集

【知る】ために——
地域の情報ネットワークを活用しよう

● レポート 成蹊大学メディアリテラシー実習



NO. 2008 **72** autumn

20年度『まなこ』の年間テーマは【知る】。
「知っていて良かった！」
こんな経験、誰にでもありますね。

平成20年度
年間テーマ

知る

72号は【知る】ために～
地域の情報ネットワークを
活用しよう！です。



イラスト/きたもりちか

テレビ、新聞、雑誌、インターネットに携帯電話……。いまや現代社会は情報の洪水。でも、本当に必要な情報が得られていますか？ 地域情報の収集・伝達・発信について考えてみます。

IT技術の飛躍的な進歩で、現代は高度情報化社会と言われています。パソコンや携帯電話で、いつでも、どこでも、簡単に情報が手に入るようになりました。

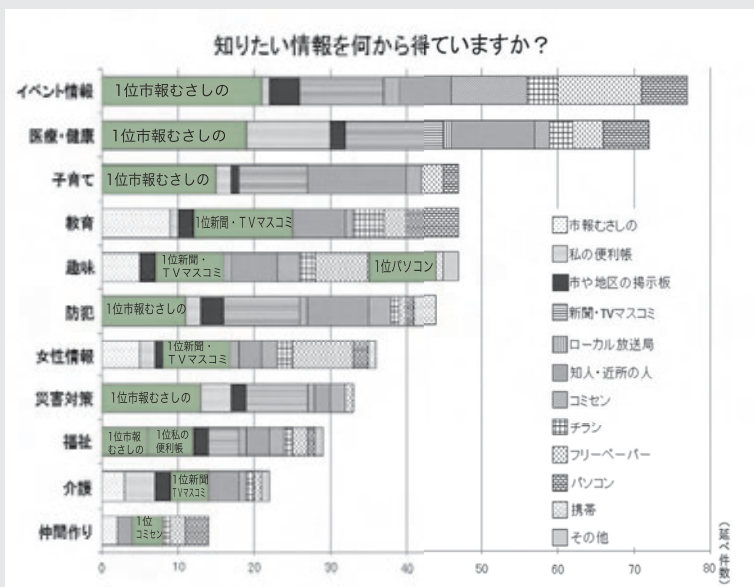
一方で、生活に密着した地域の情報は、新聞、テレビ、雑誌などでは手に入らないこともしばしば。ならば自分たちで情報を集めて発信しよう、とさまざまなネットワークが生まれています。子育てや介護、生涯学習に市民活動、特定非営利活動法人(NPO)活動、仲間づくりから町づくりまで、男性も女性もいきいきと暮らしていくためには情報が不可欠です。人と人のつながりがあなたの【知る】を助けます。

あなたは情報ネットワークを活用していますか？

特集 【知る】ために～地域の情報ネットワークを活用しよう！

■『まなこ』読者に聞きました！

Q1 地域の情報であなたが知りたいと思うのはどんな情報ですか？
またその情報をどのように入手しますか？



レポーターを中心に、読者の方にお聞きしています。(レポーターは毎年3月に募集)

Q2 より便利で的確な地域の情報入手のために、あったらいいなと思うことがありますか？

- ・市のHPをもっと見やすくしてほしい。
- ・メールマガジンやネット配信のお知らせなど(特に防犯情報)
- ・市内の情報検索サイトや市民のためのポータルサイト
- ・人と人のネットワークづくり
- ・情報誌やフリーペーパー
- ・防災・防犯のため危険箇所などを書いたマップ
- ・市報からの情報が充分。

Q3 昨今、インターネットを利用したパソコンや携帯の掲示板、ブログ、サイトなどを利用して犯罪や社会問題などが起こっていますが、それらを利用する時に気を付けていることはありますか？

- ・インターネットは利用しない。
- ・個人情報の流出に注意する。
- ・怪しいサイトにアクセスしない。
- ・情報をうのみにしない。
- ・見るだけで、書き込みをしない。
- ・子どもがパソコンや携帯でインターネットに接続するのを制限または禁止。
- ・フィルタリングを検討している。
- ・情報を得るためのとっかかり。詳しく調べる時は他の方法で。
- ・相手の立場になって文章を考える。
- ・ネット上のマナーを守る。
- ・子どもがパソコンや携帯を利用する時には親がチェックし、便利な反面、害や恐さもあることを教える。

※この他にもいろいろなお意見をいただきました。

ママの「ありがとう」を 伝え続けたい

モモプロジェクト代表

横山康子さん
(吉祥寺東町)

「子どもおとなも楽しむ生活プロジェクト」、愛称「モモプロジェクト」は、一人のママの想いが出発点。地域の母親の力が集まり、04年から始まった。子育てに必要な地域情報を、横断的に自由に発信してきたいと、子育て情報マップ KAWARABANの作成や、ママのための講座を開くなど、地域とのネットワークになっっている。

●子育て情報マップ KAWARABANって何?

子連れでの外出時、まず困るのがトイレ、授乳、エレベーターの有無。そんな「困った」を助けた



KAWARABANは0123吉祥寺、0123はらっぱなどの子育て支援施設に置いてあります。

- 連絡先 TEL/FAX 21-6277
- URL <http://www.momoproject.net>
- E-mail kichijoji@momoproject.net

いとできたマップ。吉祥寺、三鷹、武蔵境と地区ごとに作成している。子連れでも、買い物や食事、生活を楽しんでほしい。建築家の

パパの実践がヒントになって生まれた防災マップ、障がい児の子育てを応援するスペシャルケアマップも手に取ってほしい。

(KAWARABANはNPO K i s sとの協働プロジェクト)

●誰がどんな目的で作成してるの?

スタッフ全員が現役ママ。赤ちゃんをおんぶしながらでも「できる時に無理なく参加できる」をコンセプトにしている。一緒に作業するうち、いつの間にか母親同士のネットワークもできた。自分たちの経験を生かし、初めて子どもをもつ家族や、慣れない土地での子育てを応援する。障がいのある子もない子も、このまちで一緒に子育てできるよう支えたい。

●情報収集はどうやって?

スタッフが人づてに聞いたり、実際に行ってみて「良かった」と思う場所を、市民の目線で取り上げていく。子どもがいるからと、外出をためらいがちな親たちに、子どもに優しい施設やお店を紹介することによって、積極的に地域へ出かけてほしい。このまちで子育てしたいと思ってもらえたらうれしい。

●モモプロジェクトはどんな講座を開いているの?

毎年秋に、プロのライターとカメラマンを招いて、「ママたちのライター講座」を託児付きで開催している。子育てから解放されて学べる場として好評だ。また、次のマップ作成スタッフが育つきっかけにもなっている。

モモプロジェクトは、ママたちが子育て中に感じた「ありがとう」を次世代へ伝えていけるよう、見守り応援していくために活動している。取材 戸田真帆子(文)

●子育て情報を次の世代へ



そんな思いが込められた子育てマップ KAWARABAN。子育て世代の「良かった」がたくさんつまっている。

マップを手にとった方が実際に見て行動する。そのきっかけ作りになれば良い。そのためには発信者側からフィルターをかけず、広く浅く事実を伝える。読み手は発信者となつながら、行動すること。また人と人がつながる。ご主人の転勤で知らない土地に移り住み、知り合った方々からいろいろな情報を得たことで、「その町が大好きになった」という横山さんの経験がきっかけだ。

「まなこ」レポーター 橋本光枝

知る喜びは生きる喜び

出版NPO「本をたのしもう会」代表

山崎三省さん
(中町)

出版社OBの山崎さんは01年に出版OB仲間とNPOを立ち上げた。その活動の中心は、年に一度、作家や文化人を招いて講演会を開催すること。第1回の講師、井上ひさし氏の「人間が作り上げたもので一番素晴らしいものは本である」という言葉に共鳴し、読書の面白さや魅力、本の大切さを伝えたいと活動してきた。これまで落合恵子氏や谷川俊太郎氏を講師としてお迎えした。登録会員は千五百人を超え、読書の輪が広がっている。

また地域では「本をたのしもう会」懇談会を開き、読書活動団体とのネットワークづくりも積極的に行う。その活動は「本をたのしもう会」の通信で会員に伝えている。

山崎さんは「人間の心理には知識を求め、心が息づく。ネットワークには便利さや親しみやすさだけでなく、読むこと、



2007年の谷川俊太郎氏(右)の講演会。壇上で対談形式で行われた。

書くことでの広がり重要」と話す。バーチャルではなく、リアルな人間関係を築くうえで、今こそ「本を楽しむ！」とメッセージを発信する。

シニアのネットワークづくりの最初の一步は?と聞く、「まずコミセンに関わってみること!」と明快な答え。地域の身近な場所、人と人のつながりを作り、その中で必要な情報を手に入れ、伝えていく。「知る喜びは生きる喜び」と言う山崎さんに、人生を豊かにする方法を教えてください。取材 作部径子・渡辺令子(文)

出版NPO..... 「本をたのしもう会」

出版NPO「本をたのしもう会」
連絡先 山崎さん 56-9082

- 講演会のご案内
- 11月30日(日)14時~
- 「上野千鶴子の縦横無尽」
- 入場料1,000円。
- 武蔵野公会堂にて